

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	当座借越
固定資産売却益	未収入金	仕入	貸倒損失
車両	貸倒引当金	受取手形	建物
支払手形	水道光熱費	通信費	未払金
減価償却費	買掛金	固定資産売却損	雑費
償却債権取立益	減価償却累計額	売掛金	支払運賃

1. 販売目的で自動車を¥3,600,000 で購入し、代金は後日支払うこととした。また、その引取運送費として ¥32,400 を現金で支払った。なお、当店は自動車販売業を営んでいる。
2. 当座預金口座より水道光熱費 ¥89,600、通信費 ¥150,000 が引き落とされた。当店は当座借越契約 ¥10,000,000 を締結しており、引落日前の当座預金残高は ¥186,500 である。
3. 建物（取得原価：¥20,000,000、減価償却累計額：¥10,800,000）を期首に売却し、売却代金 ¥8,000,000 が普通預金口座に入金された。なお、固定資産の減価償却の記帳方法は直接法である。
4. 得意先北九州商店より受け取っていた約束手形 ¥500,000 を仕入先国東商店の掛代金支払いのために裏書譲渡した。
5. 昨年度に得意先山形商店が倒産し、その際に売掛金 ¥400,000 の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い ¥150,000 の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。なお、昨年度の貸倒れ時には貸倒引当金で補てんしている。

第2問 (8点)

当店は、決算（年1回、12月31日）にさいし、売上原価勘定を用いて売上原価を算定している。この方法により、答案用紙の繰越商品勘定および売上原価勘定に必要な記入を行い、締め切るとともに、繰越商品勘定については開始記入もあわせて行いなさい。期末商品棚卸高の価格計算は先入先出法によっている。なお、下記の期末直前の商品有高帳（必要最低限の情報のみ記載）を参照して期末商品棚卸高を計算すること。

商品有高帳

先入先出法			Z商品						(数量単位：個)		
平成 29年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	
12	10	仕 入	100	520	52,000				80	510	40,800
									100	520	52,000
12	25	売 上				50					
			9,980		5,263,420						

第3問 (30点)

次の【資料Ⅰ】平成29年10月末の合計試算表と【資料Ⅱ】平成29年11月中の取引にもとづいて、平成29年11月末の合計試算表を作成しなさい。

【資料Ⅰ】平成29年10月末の合計試算表 (単位：円)

合 計 試 算 表		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
2,562,000	現 金	1,965,200
5,895,200	当 座 預 金	4,992,000
2,065,000	受 取 手 形	800,000
4,365,000	売 掛 金	2,500,000
265,000	繰 越 商 品	
552,000	備 品	
890,000	支 払 手 形	1,980,000
2,000,000	買 掛 金	2,350,000
30,000	貸 倒 引 当 金	68,500
	備品減価償却累計額	276,000
	資 本 金	1,896,240
5,800	売 上	10,985,200
5,074,740	仕 入	25,300
2,987,500	給 料	120,400
836,000	支 払 家 賃	
260,500	水 道 光 熱 費	
109,800	通 信 費	
33,800	支 払 手 数 料	
26,500	消 耗 品 費	
27,958,840		27,958,840

【資料Ⅱ】平成29年11月中の取引

- 3日 仕入先山形商店より商品¥256,300を購入し、代金は掛けとした。
- 5日 買掛金の支払いとして¥300,000の約束手形を振り出し、仕入先に対して郵送した。なお、郵便代金¥500は現金で支払った。
- 8日 得意先九州商店に対して商品¥680,000を販売し、代金のうち半額は約束手形を受け取り、残額は掛けとした。また、同日に仕入先青森商店に対して掛代金¥200,000を当座預金口座から支払っている。
- 10日 備品¥180,000を購入し、諸手数料¥15,200とあわせて後日支払うことになっている。
- 16日 銀行に取立てを委任していた約束手形¥220,000が決済され、当座預金口座への入金を受けた。また、銀行に対する取立手数料¥1,000が当座預金口座から引き落とされた。
- 20日 従業員への給料¥365,200を当座預金口座より振り込んだ。
- 25日 店舗の家賃¥76,000および電話代¥11,000が当座預金口座から引き落とされた。
- 27日 水道光熱費¥26,400が当座預金口座から引き落とされた。

第 4 問 (12 点)

小部商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の 3 種類の伝票に記入し、これを 1 日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の平成 30 年 2 月 1 日の取引について作成された次の各伝票にもとづいて、仕訳日計表を作成しなさい。

入金伝票 (売掛金)	No.101 56,000	出金伝票 (仕入)	No.201 46,000	振替伝票 (仕入)	No.301 150,000
入金伝票 (受取手形)	No.102 80,000	出金伝票 (営業費)	No.202 42,000	振替伝票 (買掛金)	150,000
入金伝票 (当座預金)	No.103 30,000	出金伝票 (買掛金)	No.203 250,000	振替伝票 (買掛金)	No.302 100,000
		出金伝票 (支払手形)	No.204 120,000	振替伝票 (支払手形)	100,000
				振替伝票 (売掛金)	No.303 220,000
				振替伝票 (売上)	220,000

第 5 問 (30 点)

次の(1)決算整理前の総勘定元帳の各勘定残高、(2)決算整理事項等にもとづいて、貸借対照表と損益計算書を完成させなさい。なお、当会計期間は平成29年1月1日から平成29年12月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前の総勘定元帳の各勘定残高

現金	¥ 各自推定	当座預金	¥ 5,555,000	受取手形	¥ 2,250,000
売掛金	2,260,000	貸倒引当金	32,500	繰越商品	123,500
備品	各自推定	支払手形	3,200,000	買掛金	2,450,000
借入金	各自推定	資本金	各自推定	売上	16,523,000
受取手数料	36,800	仕入	8,886,500	給料	2,480,000
支払家賃	280,000	水道光熱費	236,500	保険料	61,440
通信費	115,200	消耗品費	69,500	支払利息	7,500

※ 資本金勘定の推定にあたって、決算整理前における同勘定の記入状況は次のとおりである。

資		本		金	
3/15	現 金	150,000	1/1	前 期 繰 越	1,658,000
6/15	仕 入	235,000			

(2) 決算整理事項等

- ① 期末の現金実際有高は¥2,062,500であり、帳簿有高は¥2,065,160である。なお、現金勘定残高と実際有高との差額は不明である。
- ② 売掛金¥300,000の回収として当店振出しの約束手形を回収したが、誤って他店振出しの手形を回収したものと処理している。
- ③ 受取手形および売掛金の期末債権残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- ④ 期末商品の棚卸高は¥79,800である。
- ⑤ 備品について、減価償却(定額法で計算し、直接法で記帳する)を行う。取得原価は各自推定とし、残存価額はゼロ、耐用年数は8年とする。なお、備品のすべては平成26年の期首に取得したものである。
- ⑥ 保険料は、前期以前より9月1日に毎年同額(1年分)を支払っている店舗に対する損害保険料である。よって、未経過分を月割により繰延べる。
- ⑦ 支払利息は、当期首から3月31日(利払日)までの借入金に対する利息である。借入金の金額は、期首から変動はなく、その利率は年1.5%である。よって、決算日までの利息の未払高を見越す。